

糖尿病センター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 下村 伊一郎

その他、副センター長（兼）教授 2 名、副センター長（兼）寄附講座准教授 1 名（兼任を含む。）

2. 診療内容

平成 30 年 4 月 1 日、糖尿病センターが開設された。糖尿病治療の最終目標は、糖尿病患者が、健康な人と変わらない日常生活の質（QOL）を維持し、健康な人と変わらない寿命を確保することである。そのためには、糖尿病特有の細小血管合併症（網膜症、腎症、神経障害）及び動脈硬化性疾患（冠動脈疾患、脳血管疾患など）の発症・進展を阻止することが極めて重要である。しかしながら、多くの糖尿病は自覚症状がないため、治療に対して前向きになれない患者もおり、気付いた時には合併症が進展し取り返しのつかない状態となる。

我が国でも、食生活の乱れや身体活動量の低下などに伴い、糖尿病（2 型糖尿病）及びその予備軍は増加の一途を辿っている。実際、日本人の糖尿病患者も肥満者（BMI 25 以上）が約半数に達しており、糖尿病治療には食事療法が大前提になる。しかし、健全な食生活を日々送っていくのは決して容易いことではない。また、適度な運動習慣も取り入れていく必要もある。

糖尿病治療ガイドライン（日本糖尿病学会）において、小児及び高齢者の糖尿病については、ライフステージごとの糖尿病として別項として最近取り扱われており、治療管理目標や栄養指導内容が成人のものとは一部異なっている。小児 1 型糖尿病では、様々な医療スタッフの多大なる支援が必要となる。肥満に起因する小児 2 型糖尿病も増加しており、年齢及び身体活動レベルに応じた細やかな栄養指導や生活指導が求められる。また、高齢化に伴い、高齢者糖尿病も増加の一途を辿っている。心身機能の個人差が著しいこと、重症低血糖を来しやすいこと、併存疾患が多いこと、食事制限によりサルコペニア・フレイルといった病態に陥りやすいなど、治療内容や栄養指導の方針が、成人期とは異なっている。

このような背景のもと、当センターでは、栄養マネジメント部、糖尿病ケア・看護外来と共に、糖尿病・内分泌・代謝内科、小児科、老年・高血圧内科を中心に、ライフステージに応じたきめ細やかな糖尿病診療、

そして糖尿病合併症予防治療・療養を目指している。

3. 診療体制

糖尿病・内分泌・代謝内科、小児科、老年・高血圧内科の各診療科において、従来通りの糖尿病外来を展開している。当センターにおいては、医師・看護師・管理栄養士が連携して、主として以下の診療に注力している。

- 1) 糖尿病透析予防指導
- 2) 糖尿病ケア・看護外来
- 3) 糖尿病合併症評価
- 4) 皮下連続式グルコース測定（CGM、FGM）機器の導入とサポート
- 5) インスリンポンプ使用中の 1 型糖尿病患者のサポート

4. 診療実績

糖尿病センターの設立に伴い、医師・看護師・管理栄養士が当センターにおいて効率よく診療に従事することが可能となっている。

平成 30 年度に比して、糖尿病透析予防指導算定件数は+48 件、糖尿病外来栄養食事指導算定件数は+50 件、在宅自己注射指導管理料算定件数は+895 件と大幅に増加した。以下、令和元年度の実績を列挙する。

- 糖尿病透析予防指導算定件数： 308 件
- 糖尿病外来栄養食事指導算定件数： 593 件
- 糖尿病療養指導件数： 154 件
- 皮下連続式グルコース測定算定件数： 83 件
- 在宅自己注射指導管理料算定件数： 15,010 件

5. その他

今後、糖尿病地域連携並びに院内糖尿病診療のプラットフォームとして、当センターを発展させていきます。